



# 四日市大学 学報 第71号

## “Act4U”を キー・コンセプトに 新しいカリキュラムを導入

総合政策学部 教授  
教育・学生支援部長 三田泰雅



められる2つの教育課題の両立をはかっています。両者をバランスよく育成するために、学部を超えた全学的な教育と各学部の専門教育とで役割分担をすることにしました。

大学は、自らの教育理念にもとづいて教育課程を体系的に編成することになっていきます。この体系的な教育課程のことを「カリキュラム」といい、数年に一度の頻度で改定が行われます。これには、大学の教育研究は大学の自主性が尊重されるべきであるという理由と、社会への人材供給という観点から、柔軟で弾力的な対応が必要であるという二つの理由があります。

四日市大学では2023年の春から新しいカリキュラムがスタートします。導入して6年になる現行のカリキュラムを見直し、時代に合わせてリニューアルすることになりました。

新しいカリキュラムのキー・コンセプトは「Act4U（アクト・フォーユー）」です。これは2020年から導入しているフリーズで、学園綱領であり建学の精神でもある「人間たれ」をベースに、実践につながる学びを求めてゆこうとする姿勢を表しています。学園全体を貫く友愛の精神に、実学重視の学风をミックスした考え方だといえるでしょう。

このコンセプトにもとづいて、新しいカリキュラムでは社会で役立つ実践性と学問的な専門性という、大学に求められる2つの教育課題の両立をはかっています。両者をバランスよく育成するために、学部を超えた全学的な教育と各学部の専門教育とで役割分担をすることにしました。

学部を超えた全学的な教育のこと

を、本学では全学共通教育と呼んでいます。全学共通教育では社会に出て役立つ能力の育成に重点をおき、資格志向の科目群を整備しました。現行カリキュラムにある「スキル科目」の枠組みを、キャリア教育に組み込んで発展させます。スキル科目は一種の副専攻ともいえる制度で、自分の描くキャリアプランにあわせて「英語力養成」「IT基礎力養成」「公務員養成」「社会調査士養成」「スポーツライセンス」の中からどれか1つのスキルを選び、集中的に学ぶというものです。1つのスキルはおおむね7〜8の科目群（ユニット）で構成されており、一つのユニットを修めることで、社会に出て役立つスキルを身につけられるようになっていきます。

一方、学部の専門教育は、学問的な専門性を深めてゆくことを重視します。このため、学生一人ひとりが自らの興味に合わせて学問分野を深く学んでゆけるよう「専攻」制を採用しました。あわせてゼミの強化をはかり、集大成としての卒業研究につなげてゆきます。

社会的な課題解決の考え方を学ぶ総合政策学部は、3つの専攻に再編成します。市民と行政が共に担う地域の課題を知り、その解決策を考える「公共政策専攻」、企業が直面するビジネス上の課題を発見し、その解決策を考える「経営戦略専攻」、文化的側面や社

会現象から社会問題をとらえ、その解決策を考える「人文社会専攻」の3専攻です。いずれの専攻でも、PBL（課題解決型学習）などを積極的に導入して現実の地域に存在する課題にふれ、問題の発見から解決にいたるプロセスを学ぶことで、現代社会に求められる課題解決力を備えた人材の育成をはかります。

環境情報学部は「メディア情報専攻」と「環境科学専攻」の2専攻になります。同学部は近年「グリーン×デジタル」と表現されるようになった世界的な課題を、1997年の設置当初から追究してきました。メディア情報専攻はデジタルの分野を中心に学びます。AI、プログラミング、Webデザインなどの情報技術の修得を目指すとともに、映像、楽曲、CG、VRなど様々な形態をとるメディア作品の制作や、音と光のライブ演出の技術を学び創造的にメディア表現ができる人材を目指します。環境科学専攻はグリーンにあたる分野が主なフィールドです。自然と環境に関する科学を総合的に学び、地球規模や地域に関わる環境問題の解決に取り組む人材を目指します。

今回のカリキュラム改定によって、来春の新生入生たちが楽しく充実した4年間を過ごすことはもちろん、卒業後も大学で身につけたことを活かして、自分らしい人生を歩んでゆけるような学びが可能になります。

Act4Uのコンセプトに基づいて、学生たちが自身が成長を実感できるカリキュラムにしてゆきたいと考えています。

essay

# いろいろな「博士」と いろいろな「研究」

環境情報学部 准教授 廣住豊

「博士」や「研究者」と聞くとどんなイメージを持つでしょうか。少し髪の毛がさびしくなった白い髭の老人でしょうか。それとも角帽をかぶって眼鏡をかけた白衣の人でしょうか。世代によっては名探偵コナンの阿笠博士かもしれませんし、ポケットモンスターのおーりム博士やフトゥー博士かもしれません。

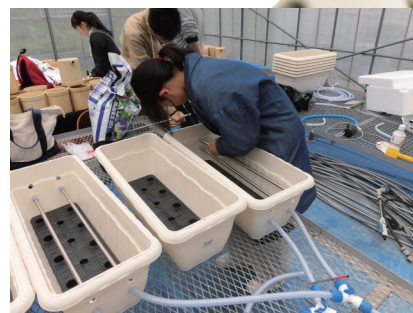
ひとくちに博士や研究者といってもさまざまな人がいます。私は学生時代、農林水産学系の専門分野で勉強していました。そこには、工具を小脇に抱えてツナギ姿で闊歩する人、麦わら帽子にTシャツ姿でお転婆少女のようなく出で立ちの人、よくわからない試薬で染まったカラフルな白衣を身にまとっている人など、さまざまな博士や研究者が「生息」していました。四日市大学に来てからも、野生動物を追い回している先生がいたり、現役テレビマンの先生がいたり、バラエティ豊かな人たちに出会いました。この多様性を許容するところが、大学や学問の世界の良さかなと思います。

博士や研究者にいろいろな人がいるように、研究にもいろいろなものがあります。ドラマや漫画みたいに巨大実験施設で何億円もの予算をつかって行われる一大研究プロジェクトから、研究者ひとりひとりが地道に続けている小規模な個人研究まで、大小さまざまな研究があります。むしろ数としては研究室単位や研究者個人で行われている小さな研究の方がずっといっぱいあります。この小さな研究がたくさん集まって学問や科学の世界が成り立っていると考えた方が現実に近いかもしれません。そしてこれが学問や研究者の多様性を形作っているようにも感じます。

大学で研究室ごとに行われている小さな研究は、まさに「家内制手作業」です。私も、100円シヨップやホームセンターで材料を買ってきて実験装置を作ったことや、学生と一緒にビニールハウスを建てたこと、小型の耕運機とスコップで手掘りの田んぼをつくったことがあります。栽培実験では、研究室みんなで手分けして作物を世話し、ひとつひとつ手作業で分析しました。(下段の写真は一例)

小さな研究には大きな研究にはない良さがあります。高度に分業化された大規模な研究プロジェクトの場合、自分では研究の全体像を把握できなかつたり、逆に個別の現象を細かく調べることができなかつたりします。これに対して、小さな研究は研究全体を見渡しながら細かいところにもこだわって試行錯誤ができる魅力があります。小さな研究は失敗に寛容なところもよいところです。会社が商品製造で失敗したら大損失を出してしまいます。大規模な研究プロジェクトでは失敗が許されないものもあるでしょう。でも小さな研究は少々失敗しても修正や方向転換がしやすく割と何とかなつたりします。とくに学生は「失敗してもよい」という特権をもっと活用しないと損です。

研究というと大発見や大成功ばかりが目されます。しかし、成功しそうなことばかりやっても新しいことは見つかりません。とくに大学生はたとえ小さなことでも実際に自分の手で挑戦してみること、成功するために試行錯誤することの方が、後々人生の役に立つように思います。これから卒業研究に取り組む大学生の皆さん、将来大学生になる皆さんには、ぜひ自分だけの小さな研究に取り組んで、たくさん失敗をしてみたいと思います。



<廣住ゼミの活動の様子>

いずれも体育館南側にあるビニールハウスと畑での活動の様子



# 三重県私立大学高専協会令和4年度「教育研究費助成」と 学長裁量経費による研究費の支出について

三重県のすべての私立大学と高専により組織されている三重県私立大学高専協会は、毎年度「教育研究費助成」(1件10万円)を行って頂きます。令和4年度は、本学が選定されたことから、助成対象となる研究を募集したところ3件の応募がありました。

三重県私立大学高専協会「教育研究費助成」の対象は1件ですが、応募された研究テーマは、いずれも研究として有意義なものと判断されましたので、前川教授の研究を助成対象とし、田中特任教授と野呂特任准教授の研究は学長裁量経費により本学から研究助成を行うこととしました。応募された研究の申請者及び研究内容は以下のとおりです。

なお、学長裁量経費により個人研究費を支出するのは初めての事です。

申請者	研究内容
環境情報学部 教授 前川督雄	「メディア表現・情報技術の境界領域における先進メディアを用いた教育環境の開発」 専門演習のために構築してきた教育・研究システムを母体として、6号館6201教室、6202教室にメディアと情報の境界領域を対象とした複合メディア教育・研究環境〈デジタルスタジオ〉の構築を進めています。これまで仮想空間における3Dコンピュータグラフィックス制作やそのVRシステムへの適用、あるいは3Dプリンターに展開してのものづくりを学生に行わせて、卒業研究などに結実させてきました。本開発研究では、現行システムを母体にして、VR体験システムやVRコンテンツのプロトタイプを開発することを旨とするともに、システムの拡充を進めます。
環境情報学部 特任教授 田中雅章	「学習支援スマートフォンアプリの実装と学習分析」 学生の学習への姿勢や学習状況のデータを収集するためのスマートフォン用アプリケーションを実装します。学生のスマートフォンへアプリケーションをダウンロードするために公式登録を行います。このアプリケーションの一部は実際に授業で使用しており、早期に学生の学習姿勢を把握することができました。さらに受講する全ての学生の意見を収集することができます。また、自己申告ではありますが学生の理解度が収集できるため、授業の難易度を軌道修正しながら実施することができました。さらに留学生にとって、程良い日本語の練習になった事が確認できています。
環境情報学部 特任准教授 野呂達哉	「四日市大学と周辺の自然環境を生かした生物多様性学習プログラムの開発」 地域に生息する生物を調査し、生物多様性を把握することは、地域の自然環境を保全するための基盤となります。また、調査を継続的に実施し、生息する生物の記録を残していくことは、経年的な地球環境の変化を知る上でも重要な指標と成りえます。これらの活動に学生が主体的に参加することは、環境保全の担い手や次世代の指導者の育成にも繋がります。本研究では、自然環境に恵まれた四日市大学とその周辺の立地を生かした生物調査を学生と協働で計画・実施することで、学生参加・体験型の「生物多様性学習プログラム」を開発することを目的としています。具体的には、昆虫類、魚類、両生類、爬虫類、哺乳類などの調査を通して、「生物多様性学習プログラム」を開発・提案します。

## グッドプラクティス賞

令和3年度「Good Practice賞」

表彰式を挙行了しました

令和4年3月2日に全学FDである「教学フォーラム」において令和3年度「Good Practice賞」の表彰式を挙行了しました。

「Good Practice賞」とは学生による授業改善アンケート等の結果に基づき、評価の高かった優れた授業や取り組みに対して学長が学長裁量経費により表彰するものです。今年度はコロナ禍のため、前学期分と後学期分の合同開催となり、前学期は大八木希准教授、後学期は千葉賢教授のいずれも環境情報学部所属の先生方が受賞されました。本学では、今後も教育改善・改革を推進するために、教員の優れた取り組みを顕彰し、より質の高い教育を実践してまいります。



(左)大八木准教授 (中央)岩崎学長 (右)千葉教授

## 四日市大学と地域自治体との 包括連携協定の締結

本学は、四日市市との公私協力型大学として、地域貢献を主眼として設置されたことから、四日市市との結びつきが強くありますが、さらに地域に根差した大学作りを進めることをめざし、2014年に文部科学省のCOC事業(大学の地域貢献機能を強化する事業)に採択されたことを契機に、さらに取り組みを強め、学校法人暁学園の第七次中期経営計画(2018年(2022年)において、三重県北勢地域の3市5町(四日市市、桑名市、いなべ市、菰野町、東員町、川越町、朝日町、木曾岬町)との包括連携協定の締結をめざすことを掲げ、これまでに(2022年11月現在)、桑名市、川越町、木曾岬町を除く2市3町と包括連携協定を結んでいます。

これにより、地域自治体とのつながりが、教員による自治体の各種委員への就任や地域をフィールドにした学生との授業を通じて行われてきたこと、言わば個人的なつながりが中心であったものを、大学と自治体という組織的なつながりに昇格させる基礎を作ることができました。

今回の包括連携協定に共通していることは、協定により大学と地域自治体が有する人的・知的・物的資源を活用し、幅広い分野で連携及び協力することにより、地域を担う人材育成と新たな価値の創造による地域社会の発展に寄与することを目的とすることです。

各自自治体との具体的な連携事業は、今後詰めていくこととなりますが、実り多き事業となることが期待されます。



▲ 東員町との協定締結にて

## 久居農林高等学校との 高大連携調印式

本学は、これまで模擬授業等で交流のあった県内外の高等学校と連携協定の締結を進めています。高大連携は、高校及び高校生にとっては、受験における大学との関係強化、大学教育に触れる機会の増加、それによる進路選択における大学の内容や就職状況などの情報の増加が、一方大学にとっては、その大学に興味を持つ生徒との接点の増加など、これまでよりも幅広い結びつきが期待されます。

このたび2022年7月1日に、三重県立久居農林高等学校において、同校と四日市大学との高大連携協定の調印式が行われました。地域で活躍する人材育成を進めるなど、同校との連携を強化するというこの協定を通して、高校、大学間での情報交換を密にしながら、これまでの関係を、さらに充実したものにすることを目指してまいります。



▲ (左)岩崎恭典学長  
(右)吉川秀明校長



久居農林高等学校と四日市大学との新しい関係が結ばれた瞬間

## 特待生認定証授与式と座談会

9月15日に四日市大学特待生認定証の授与式が行われました。特待生制度は、学業成績が優秀な者に対し奨学金を給付する制度です。本年度は4名の学生が認定されました。

岩崎学長、三田教育・学生支援部長と学生の座談会では、来年度から実施予定の新しいカリキュラムに対する意見交換を行い、日頃の学修の様子と共に通学バスの不便さや食堂の混雑、放置自転車など学生生活上の課題についての指摘もありました。こうした学生の声を聞く機会には多くないので、解決に向けて着手するなど、このような機会を生かし具体的な行動で取り組んでいきたいと思えます。



▲ 座談会の様子  
(右手前)三田部長 (右奥)岩崎学長

### 2022年度特待生認定者

学部	学年	氏名
総合政策学部	2	山中 稜也
	2	長谷川 達
	3	大西 裕馬
環境情報学部	2	北川 優翔

## 社会連携活動

◎四日市大学公開講座2022を9月17日14時から、四日市市地場産業振興センターじばさんで、三重県四日市市の後援を受け開催しました。

講師はフェリペフェハリ総合政策学部特任准教授が務めました。講演は「日常生活の哲学」と題し、日常生活に隠されている哲学の問題を明らかにしつつ、答えのない問いに対して考え続けることの大切さを伝えました。

満員の会場からは、「ユーモラスな説明で良く理解できた」「哲学を身近に感じることができた」など好評をいただきました。

◎2021年度版社会連携報告書を作成しました。大学と教職員等の社会連携活動がまとめられています。無料にて配布しておりますので、ご希望の方は四日市大学社会連携課までお申し込みください。



公開講座 ▲



▼ 社会連携報告書

## 本学のプログラムが文部科学省「留学生就職促進教育プログラム認定制度」に採択

本学の申請した「留学生三重おもてなし就職促進教育プログラム」が、2022年11月、文部科学省「留学生就職促進教育プログラム認定制度」に採択されました。

このプログラムは、外国人留学生に対する「日本語教育」「キャリア教育（日本企業論等）」「インターシップ」を一体として提供する質の高い教育プログラムを文部科学省が認定し、当該プログラム修了者が就職活動において各大学が発行する修了証明書を提示することにより、外国人留学生の国内企業等への就職を一層促進することを目的として実施するものです。

## 令和4年度

### 四日市大学教育後援会 保護者懇談会の開催

令和4年10月1日、都ホテル四日市において徳丸教育後援会会長、岩崎学長をはじめ約30名の保護者が参加して、教育後援会保護者懇談会が3年ぶりに開催されました。コロナウイルス禍の影響が未だに残る中、感染対策を行いつつ、徳丸会長、岩崎学長の挨拶、伊藤キャリアサポート課長から「保護者のための就職ガイダンス」と題して講演が行われました。岩崎学長、伊藤課長共に大学の取り組みを紹介し、大学、学生、保護者そして地域が一体となって、学生の成長を応援している様子を紹介しました。その後、学長との懇談会、教職員との個別面談も開催され、学生の状況等について熱心に情報や意見交換が行われました。



岩崎学長 挨拶 ▲

#### ▼ 個別面談の様子



#### 令和4年度

### 四日市大学教育後援会 役員ご紹介

役職名	氏名
会長	徳丸 敏行
副会長	池尾 晃則
書記	西村 一成
会計	田村 由美子
監査	間瀬 慎一
監査	服部 美帆
幹事	平尾 茂樹
幹事	今村 奉史
幹事	西野 友紀
幹事	諸岡 功一

### 三重県営新型コロナウイルスワクチン 集団接種会場の開設

四日市大学では、新型コロナウイルスワクチンの接種を進めるために、「三重県営新型コロナウイルスワクチン集団接種会場」を開設しました。

同会場は、学生食堂、学生ホールの他、8201教室（定員400人）や311教室（定員300人）等を使い、広く市民の皆さんを対象に開設されたものです。常設会場ではないため、大学の休業期間や土日に接種日が設けられ、前日から机や椅子を準備するなど、会場づくりが行われました。開設当初は、トイレ詰まりなど多少のトラブルが発生しましたが、その後は集団接種会場として順調に機能しています。大学施設は授業等が優先ですが、今後も協力していきたいと考えています。



# 活動報告

## 「四大祭2022」の開催

2022年10月22日に「四大祭2022〜New Sound〜」が開催されました。

有志出展では、茶道部による茶道体験、千葉ゼミによる射的、地域バトロール部による活動発表、留学生による母国の文化紹介、個人出展によるハンドメイドアクセサリーの展示、eスポーツ大会、学友会によるクイズ大会・ビンゴ大会、写真展示会が行われ、有志発表では、軽音学部・吹奏楽団の演奏、歌声合成ソフトウェアによる演奏などが披露され、大学祭の熱気が大いに高まりました。

また、今年度のメインイベントとして、Z世代を中心に大人気のラッパー「Rin音」さんのSpecial Liveが開催され、コロナ禍でも大学全体で盛り上がる事が出来たと思っています。

四大祭開催にご協力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。



▲「音楽とまちづくり」～四日市JAZZ FESTIVAL 2022～

「地域連携特別講義a(食と観光実践)」～南伊勢町贄浦漁港～



▲「祭りとまちづくり」～大四日市まつり～



▲「野生動物保全学研究室」～なごや生物多様性センターまつり～



伊勢中川駅で「駅弁のあら竹」松阪牛弁当受け取り 京都ツアー「楽」にて

JR富田駅でPR活動 JR東海「さわやかウォーキング」にて



「海洋調査法」三重大学・勢水丸による伊勢湾海洋調査実習



「環境保全とツーリズム/観光政策」志摩市 真珠養殖作業



### フィールドワーク

## 現場で学ぶ大学 教室を飛び出して

実際の体験を通じて生きた学びを得る

コロナウイルスの影響を受けて、延期や中止を余儀なくされていた「フィールドワーク」ですが、徐々に地域での活動を再開し始めました。一部を写真でご紹介します。

## クラブ紹介「旅俱樂部」

部長 大西裕馬  
(総合政策学部3年)

旅俱樂部は2021年に総合政策学部の学生5人により結成されました。コロナ禍で減少した「学生交流」を盛んにすることを目的に、旅を通じた学生間の交流を企画し実施しています。

今年度は鉄道開業150年であることから、2021年10月に行った「伊勢旅行」に続く、第二弾として近鉄の全面協力の特急あかつき(令和リメイク版)を9月8日に近鉄四日市〜京都間で運転しました。列車名のあかつきはJR西日本の登録商標ですが、私達が通う、四日市大学の学校法人が「暁学園」ということから特別に使用させていただきました。また11月23日にはJR東海が行う「さわやかウォーキング」にて鉄道各社が出展する中、三岐鉄道株式会社の協力のもと「鉄道とまちづくり」のブース出展を行いました。旅俱樂部は今後も楽しい企画を行ってまいりますのでご期待ください。

## 大正製薬リポピタン全日本テニス選手権予選 東日本大会&2022年度全日本学生テニス 選手権大会(インカレ)の結果

2022年8月15日から21日まで、四日市テニスセンターで開催された「全日本学生テニス選手権」のシングルスに、総合政策学部3年の谷川大雅さんが昨年に続いて出場しました。学生日本一を決める本大会に昨年の経験を活かして上位入賞を目指しましたが、2回戦で日本大学の天崎選手に3-6、3-6で敗れました。

また、同選手は2022年9月13日から16日まで、岩手県の安比高原テニスクラブで開催された「全日本テニス選手権予選」のシングルスに、三重県を代表して出場。1回戦は青森県代表の葛西選手に6-0、6-0で勝利しましたが、2回戦で神奈川県代表の高橋選手に惜しくも敗れ、全日本選手権本戦出場は絶たれました。

谷川さんは、「テニスコートの整備など充実した練習環境や、全国大会への遠征費補助など、大学をはじめ皆さんの応援のおかげでこうした結果を残すことができました。本当にありがとうございます。来年は4年生となり学生最後の1年になります。これまで応援して下さった皆さんの為にも、また、全国大会で四日市大学の名をさらに広められるよう頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。」と感謝の気持ちと来年の抱負を語ってくれました。



▶ 左から長谷川コーチ、谷川さん



▶ 左から岩崎学長、谷川さん、三田教育・学生支援部長

## 就職活動 (2021年度報告・2022年度状況)

キャリアサポートセンターより

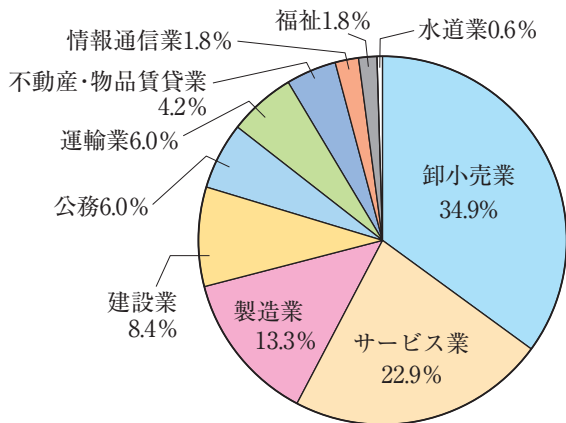
### 2021年度卒業生の就職結果

2021年度就職環境は昨年度と違い就職イベント等は感染対策を取りながら概ね実施されました。また、就活生はWEB面接やWEB説明会にも慣れ、混乱することなく就職活動は進んでいきました。

その結果、2021年度就職希望者に対する就職率は98.8%、卒業者数に対する実就職率は86%という高い数字となりました。学生を「最後の最後までサポート」するキャリアサポートセンターの支援体制、そして何より学生の最後まで諦めない努力が高い数字に表れたと思います。

業種別就職状況は、卸小売、サービス、製造の順で多くなっています。また、公務員養成に力を入れていることもあり、例年に比べ増加となっています。今後も公務員を始め、地元企業で活躍できる人材育成に取り組んでまいります。

業種別就職状況



### 主な就職先・進学先

岐阜県警察本部 / 津市消防本部 / 横浜市消防本部 / 小田原市消防本部 / 交洋 / マックスバリュ東海 / ドン・キホーテ / 藤原工業 / アペックス / ユニー / スズキ自販三重 / 三岐通運 / 浜木綿 / 第一興商 / 東海ソフト / クスリのアオキ / 昭建 / YKK AP / スーパーサンシ / 日本カラリング / キナン / イオンリテール / ニチバンテクノ / オンテックス / 日本陸送 / レンタルのニッケン / ネットトヨタ三重 / プリチストーンリテールジャパン 他

### 4年生の就職活動状況

4年生の就職環境は、新型コロナウイルス禍前の水準には戻っていないものの、求人数は増え本学に訪れた企業は10月時点で100社を超えました。就職活動は終盤を迎えていますが、まだまだ採用を継続している企業があります。キャリアサポートセンターでは未内定の学生に対し更に一歩踏み込んだ就職支援を行い、就職希望の学生全員が内定を獲得できるようにサポートを続けます。

### 3年生就職活動支援行事 (2023年)

月日	行事
1月11日	第12回就職ガイダンス「就活解禁直前対策」
1月12日・13日	履歴書用写真撮影
1月18日・19日	就職活動研修会の説明会
2月6日～10日	第2回就職試験対策講座
2月15日	就職活動研修会

# 2023年度四日市大学入学試験情報

Yokkaichi University Entrance Examinations

入学試験日程（総合政策学部・環境情報学部共通）

選抜	入試名称	出願期間	試験日	合格発表日
一般	一般入試A日程	1月5日(木)～1月31日(火)	2月3日(金) 2月4日(土)	2月10日(金)
	一般入試B日程	2月10日(金)～2月17日(金)	2月21日(火)	2月25日(土)
	一般入試C日程	2月28日(火)～3月9日(木)	3月10日(金)	3月15日(水)
	共通テスト利用入試Ⅰ期	1月5日(木)～1月31日(火)	-	2月10日(金)
	共通テスト利用入試Ⅱ期	2月10日(金)～2月17日(金)	-	2月25日(土)
	共通テスト利用入試Ⅲ期	2月28日(火)～3月9日(木)	-	3月15日(水)
	共通テスト利用入試Ⅳ期	3月13日(月)～3月17日(金)	-	3月23日(木)
	共通テストプラス入試	1月5日(木)～1月31日(火)	-	2月10日(金)
学校推薦型	クラブ推薦入試C日程	2月3日(金)～2月10日(金)	2月21日(火)	2月25日(土)

受験生サイト



## 新 奨学金制度

## 入試特待生制度がアップグレード!

◎対象の入学試験での成績上位者から選抜、授業料（最大全額）を減免します。

**対象入試** 対象入試：一般入試（A日程・B日程・C日程）、大学入学共通テスト利用入試（Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期）、共通テストプラス入試

▶▶▶ 授業料の100%（全額）免除1種、50%減免2種、30%減免3種の入試特待生を選抜。

4年間の  
減免額

1種	2,720,000円（初年度の減免額 680,000円）
2種	1,360,000円（初年度の減免額 340,000円）
3種	816,000円（初年度の減免額 204,000円）

入試特待生  
採用枠 **40**名  
入学者定員の5人に1人

## ◎四日市大学入学支援同窓生奨学金 New

2023年度入試より、同窓生の入学支援奨学金がスタートします。

在校生および卒業生の二親等内の親族が本学を受験する場合に、次の特典を受けることができます。

▶▶▶ 入学検定料の1万円補助、入学金の半額補助

※若干名 ※2023年度入試より適用されます。※入学金補助は入学後に、入学検定料一部補助は受験後の手続きにより返金いたします。  
※本学における、他の諸納付金減免または奨学金給付を併給することはできません。ただし、貸付型奨学金はこの限りではありません。

●お問い合わせ先 [入試広報室] TEL: 059-365-6711 E-mail: nyushi@yokkaichi-u.ac.jp

## 人事異動

（令和3・4年度）

### 〔退職〕

環境情報学部特任教授	木村 真知子	令和4年3月31日付
環境情報学部特任教授	井岡 幹博	令和4年3月31日付
環境情報学部特任教授	エリック ブレイ	令和4年3月31日付
総合政策学部特任准教授	杉谷 克芳	令和4年3月31日付
教育・学生支援部教学課	小谷 美妃	令和4年3月31日付

### 〔新規採用〕

環境情報学部特任教授	田中 雅章	令和4年4月1日付
環境情報学部特任教授	柳瀬 元志	令和4年4月1日付
総合政策学部特任准教授	川崎 綾子	令和4年4月1日付
環境情報学部専任講師	樋口 晶子	令和4年4月1日付
教育・学生支援部教学課	平野 祐馬	令和4年4月1日付
教育・学生支援部留學生支援課	島津 貴仁	令和4年4月1日付
〔昇任〕		
教育・学生支援部教学課主任	浅野 路奈	令和4年4月1日付
入試広報室主任	黒田 郭格	令和4年4月1日付

## 新法人本部棟及び新教育棟の竣工式

本学を運営する学校法人 暁学園は創立75周年記念事業を行っています。そのひとつに法人本部棟の建て替えがあります。学園の本部は伊勢湾台風後の1965年（昭和40年）に、天カ須賀から現在地に移転しました。すでに半世紀を超え、かなり経年劣化が進んでいました。新法人本部棟及び新教育棟の竣工式は、2023年（令和5年）1月15日に行われます。

